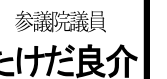




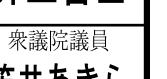
市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



衆議院議員
藤野保史



参議院議員
たけだ良介



参議院議員
井上哲士

衆議院議員
笠井あきら

県知事選挙

新田氏が現職下す

かわぶち氏及ばず

10月25日投票で行われた県知事選挙で、日本共産党、社民党、れいわ新撰組が応援したかわぶち氏や映子氏は残念ながら及びませんでした。当選は新田八朗氏で、自民党などが推した現職の石井隆一氏を下しました。新田氏の当選は、現県政に変化を求める県民の意向の表れと受け止めることができます(得票一覧表参照)。

かわぶち氏の夢の実現へ、市民運動を

新田氏は26日のテレビインタビューに答えて、石井氏、かわぶち映子氏を応援した人の思いもすっかり受け止めると述べていました。かわぶち映子氏が訴えた「いのち第一」の政策をこれからの県政に取り入れさせる市民運動を、おおいに盛り上げようではありませんか。コロナ禍のもと、どんな県政をめざすのか、かわぶち氏の訴えは、どんな問題でも自らのボランティア活動の経験に裏打ちされて、たいへん説得力がありました。医療や介護、教育の現場の声をしっかりと受け止めてくれていました。これらの声を政治に届け、実現させましょう。

正職員の拡大で 少人数学級実現を今度こそ

少人数学級の実現は3人の候補者がそろって掲げていました。そのためにはかわぶち氏が訴えていたように、学校の先生やスクールカウンセラーなどの専門職員を正規職員として採用し増やすことが欠かせません。県にその予算をつけさせる市民運動を広げましょう。少人数学級にすれば小中高校の統廃合もしなくてすむようになりす。

いのちを支える仕事に予算を 処遇改善で地域循環型経済へ

県政でいちばんたいせつな、県民のいのちと暮らしを支える仕事は、利益を上げることが目的ではなく、困っている人を助ける、一人では生きていけない人を国・県の予算で支えていくのが目的です。これらの職場では、多くの非正規の方々が支えています。これは、財界が雇用調整をしやすいように非正規労働を要求し、自民党政治がそれを受けて非正規雇用をどんどん増やしたからです。その結果、介護の職場で働く人は他の職種より月10万円も安く、管理主義と長時間勤務が強いられる教師への志望も大幅に減ってしまいました。

かわぶち氏は介護や教育にしっかり予算をつけて、処遇を改善し、安心して子育てでき、老後も安心な県政をめざすと訴えていました。これらの職場で働く人の処遇を改善すれば内需拡大にもつながり、お金が地域で循環し、地域経済が元気になるのではないのでしょうか。

新田氏は「民間企業の当たり前を取り入れる」と選挙公報で強調していましたが、民間企業では利益を出し続けないと競争に勝てない、そのためにコストを削る、今一番削られているのは人件

費ではないでしょうか。これでは経済がまわりません。教育、介護、福祉、子育てを応援するためにも、そこで働く人たちの処遇を改善させましょう。

コロナ対策 医療・介護の職場でPCR検査を定期的に

コロナ対策では、国も県もPCR検査を医療・介護の現場で働く人たちに対して定期的に実施しようとしていません。介護や医療の職場で感染の危険を感じながらがんばっている皆さんに、定期検査を実施させましょう。介護の職場ではがんばってきたのにボーナスが出ないという事態が生まれています。しっかりと予算をつけて、改善させましょう。

コロナ禍で苦しむ業者を支える持続化給付金などの支援を継続させましょう。国保税や固定資産税などの軽減、減免制度を改善、拡充させましょう。

負けてもへこたれない サンダース上院議員に続こう

負けてもへこたれないのがアメリカのサンダース上院議員です。以前、州知事選挙で負けたとき彼は「選挙で提起した問題が、州の政策の変化に帰結した」と語りました(「バーニー・サンダース自伝」p64・大月書店・刊)。訴えが国民に届き支持が広がれば、例え一時の敗北でも、必ず政治は変えられると言います。そして今、アメリカでバイデン氏を支えて大統領選挙を戦い続けています。国民の声を受け止める政治の実現へ、たゆまず歩き続けようではありませんか。

核兵器禁止条約いよいよ発効

「日本も参加を」とアピール

核兵器禁止条約に50カ国目ホンジュラスが批准し、来年1月22日にいよいよ発効することが明らかとなった26日、「日本も参加を」と憲法をまもる小矢部の会は野寺交差点でスタンディングアピールを行いました(写真)。

